

平成29年度学校防災教育実践モデル地域研究事業の取組

久万高原町教育委員会

I 取組の目的

この事業は、東日本大震災の発生を踏まえ、次世代を担う児童生徒等に対し、発達段階に応じた「自助から共助への防災教育」を発展し、その成果を各学校に推進するとともに、地域や関係機関等との連携を促進することにより、総合的な学校防災力の強化を図る。

II 取組の内容

1 少年消防クラブの活動（4年生）

(1) 結成式

本校では、毎年第1回の避難訓練時にあわせて、少年消防クラブ結成式を行っている。この活動は、本校4年生の活動として位置づけられている。久万高原町消防署と連携し、任命証を渡してクラブ員としての自覚をもたせている。今年は、5月18日に実施した。



【 結 成 式 】



【 全員集合 】

(2) 119番通報訓練と防災倉庫の見学

結成式の後、クラブ員としての最初の活動である、119番の通報訓練と本校に設置してある防災倉庫の見学を行った。どちらも、久万高原消防署の協力を得て、いざというときに慌てず119番に通報する方法を学んだり防災倉庫の中にある物について知ったりして、有意義な活動となった。



【 通報訓練 】



【 防災倉庫の見学 】



(3) 消防署・警察署の見学（社会科の学習）

4年生の社会科学習には、「くらしを守る」仕事について学習する単元がある。その中では、災害や火事を防ぐ仕組みや交通事故を防ぐ仕組みについて学んでいく。そこで、本校では、実際に消防署・警察署を訪ね、お話を聞いたり、質問をしたり、見学や体験をさせていただいたりして、より学びを深めている。このことが、災害や事故から身を守る行動の理解や意識の高揚へとつながっている。



【 消防署の見学 】



【 警察署の見学 】



学習したことをパネルにまとめて、廊下に掲示し、他学年にも啓発を行った。



【 パネル掲示 】

(4) 防災マップの作成

社会科と総合的な学習の時間において、「防災マップづくり」を行った。調査内容は、「土砂災害や水害などの自然災害」「交通量や道幅、信号機の設置などの交通環境」「不審者等に関する情報」「街灯や柵などの設備関係」などとした。調査活動を行う際は、家族にも協力をしてもらったり、社会科見学の時間に警察署員や消防署員の方に聞き取りを行ったりした。そして、みんなで集めた情報を共有しながら、整理統合して付箋に書き込み、マップに貼り付けて完成させた。



【 完成した防災マップ 】

2 発達段階に応じた防災教育の充実

(1) DVDの鑑賞（１・２年生）

防災活動、消防活動に関する内容のDVDを鑑賞したり、消防署員の方からの専門的なお話を聞いたり、質問をしたりして学習を深めていった。



【 DVD鑑賞 】

(2) 起震車体験（３・４年）

消防署の協力により、起震車を手配していただき、過去に実際に起きた地震の揺れを再現し、それを体感しながら地震の怖さを学んだ。



【 起震車体験 】

(3) 救命救急法講習（５・６年）

本校では、高学年になると自分の命を守るだけでなく、人の命を守る方法についても学習することになっている。今年度も、消防署の協力を得て、心肺蘇生法についての学習を行った。お話を聞いたり、実技体験をしたりして、その知識を深めることができた。



【 実技体験 】

(4) 砂防学習（５年生）

今年度初めての試みとして、少年消防クラブを組織している４年生が「砂防教室」に参加した。愛媛県砂防ボランティア協会、愛媛県庁砂防課、久万高原土木事務所から多くの方々に来ていただき、土砂災害の種類やしきみ、防ぐための対策や自分の身を守る方法等についてお話を聞いたあと、模型を使った学習や降雨体験、３Ｄによる土石流の疑似体験を行った。最後に、久万高原町の防災マップで自分たちの住んでいる所にどのような危険があるのか、危険所への避難方法の再点検をすることが大切であることなどについて確認した。具体物を使っての学習や身をもっての体験により、土砂災害のメカニズムやその恐ろしさをしっかりと学ぶことができた。



【 模型を使っての学習 】

【 降雨及び土石流の体感 】

また、砂防学習で学んだことをパネルにし、廊下に掲示をして、他の学年にもその内容を広めていった。



【 パネル掲示 】

3 防災管理体制の整備・防災環境整備の推進

(1) 久万地区合同防災訓練の実施

本校では、平成 28 年度より教職員のほか、地元消防団、自主防災組織、警察署、消防署が一体となって避難・火災防御・救急救助訓練を総合的に実施する取組を行っている。内容は２部構成となっている。前半は、地震と火災を想定した避難訓練や取り残された児童の救出・負傷児童の応急処置、搬送訓練を行う。後半は、消防・救急車両見学、心肺蘇生法（ＡＥＤを含む）講習、応急手当訓練等を行っている。地域を巻き込んだ総合的な防災訓練として有意義な取組となっている。



【 救助訓練 】



【 放水訓練 】



(2) 避難訓練の実施

本校では、年間3回の避難訓練を実施している。1回目は、授業中で教師が一緒についている場面で、火災発生を想定しての訓練である。2回目は、久万地区合同防災訓練にあわせて、地震発生から火災発生を想定しての訓練としている。時間帯は、授業終了後の休憩時間とした。この日は参観日とし、保護者にも避難訓練の様子を公開した。親子で防災について考えるよい機会ともなっている。3回目は、児童への事前通告なしの訓練としている。内容は2回目と同様である。また、「シェイクアウトえひめ」の実施にあわせて、落ち着いて、素早く身を守る訓練も行っている。段階を経て徐々に高度な訓練をすることにより、とっさの場合に慌てず冷静な行動がとれるようになってきている。



【 幼稚園も参加 】



【 身の安全を確保 】



【 シェイクアウトえひめ 】

4 教職員研修の充実

(1) 教職員救命救急法訓練

久万高原町消防署員を指導者に迎え、教職員を対象とした救命救急法講習を実施した。

本校には、心疾患の児童が在籍しており、その対応や共通理解も含めて、4月に実施した。

3時間の普通救命講習を受講し、AEDやエピペンの使用方法も学んだ。児童の生命に関わる不測の事態に備え、教職員の知識や技能の向上を図り、適切な対処が行われるような体制を整えた。今年度は、4月23日に実施した。



【 心肺蘇生法の訓練 】





【 A E D の使用方法 】



【 階段での事故を想定 】

(2) 防災士養成講座の受講

本年度は、本校より3名の者が防災士の資格取得をめざして、2日間の講座を受講した。防災士としての知識・技能を高め、資格を取得することができ、合計4名となった。

(3) 先進校視察（熊本県南阿蘇西小学校）

① 視察の概要

- 目 的 先進校を視察することにより、災害発生時の対応や家庭・地域関係機関との連携のあり方について理解する。
- 日 時 平成29年7月31日（月）～8月2日（水）
- 先進校 南阿蘇村立南阿蘇西小学校
- 参加者 教職員1名 消防署員1名 教育委員会職員1名



② 地震直後の状況について

- 14日（木）熊本地震前震（午後9時26分、マグニチュード6.5）
- 16日（土）熊本地震本震（午前1時25分、マグニチュード7.3）

- ・テレビがなく、被害状況が分からない。
- ・電話が繋がらない。（数名の職員のみ）
- ・職員電話連絡網で児童安否確認ができない。・・・連絡先名簿を持っていない。
- ・道路が寸断されて、移動ができない。
- ・電気、水道、ガソリン、道路などのライフラインが破綻する。
・・・車、電話（携帯電話）、パソコン、テレビ等が使用できない。

③ 臨時休校中の対応について

- 18日（月）～22日（金）地震による臨時休校→安否確認

- ・職員の被災状況の確認
- ・保護者へ「被害状況・避難状況の確認」・・・安心メール
- ・避難所での情報収集
- ・児童の安否確認・・・名簿の作成
- ・校舎の被害確認及び校内の片付け、学校再開に向けての準備
- ・臨時休校の延長・・・5月6日（金）まで

④ 避難所運営について

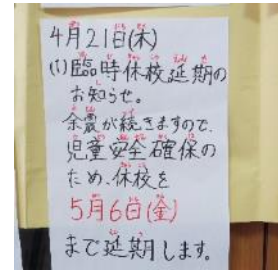
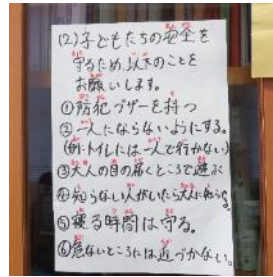
○ 4月17日（日）～5月23日（月）の間（体育館と運動場と図工室を開放）

- ・ 区長さん、役場、消防団を中心に
（後では他県からの派遣）（学校は必要な物を貸し出す）
- ・ 自衛隊・・・テント10、シャワー室、風呂の設営
- ・ 壁新聞の作成・・・学校の情報を掲示
- ・ 学習会の開設・・・心のケア、読み聞かせ、ゲーム、生活指導
- ・ 説明会、保護者相談会等の開設

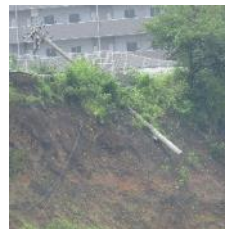
⑤ 熊本地震の対応における課題と対策について

分 類	大変であったこと	どうあればよかったか
災害発生時	① ガソリンの確保 ② 安否確認 ③ 被害状況の確認（家屋・教科書等）	① 教委から災害派遣用給油カードの発行 ② 職員連絡網、児童名簿の作成と安心メールの登録推進と活用
学校再開	① スクールバスの運行 ② 保護者への情報発信 ③ 他校への手続き ④ 転出先の学校との連携	① 児童の避難場所の確認により、経路と時間の設定 ② 避難所への壁新聞、安心メール、保護者説明会の実施 ③ 一時受け入れ・区域外就学・転校の周知と教育委員会との協議が困難 ④ 避難所の児童の受け入れ先の決定、転出児童の情報の発信、保護者への情報発信に苦慮
教育委員会等との連携	① 災害情報の把握 ② 通学方法の選定	① 被災状況、復旧状況、避難所塔の情報が混乱 ② 交通遮断による影響
避難所運営	① 情報発信 ② 避難所の閉鎖	① 学校からの情報発信は、壁新聞を作成 ② 体育や部活動で体育館を使用したいため、早期の避難所閉鎖をお願い
施設・設備関係	① 施設の安全確認	① 破損箇所を写真に撮り、教委に報告 村教委、県教委、文科省より安全点検
心のケア関係	① スクールカウンセラーの確保	① 6月8日～1学期末まで、福岡県のS.Cを派遣また、9月9日～3学期末まで週2日派遣

⑥ 写真資料



【 壁 新 聞 】



【 被 災 地 の 状 況 】

5 家庭や地域、関係機関との連携の推進

(1) 防災キャンプの実施

9月29日（金）の夕方から30日（土）の朝にかけて、「防災キャンプ」を行った。4・5・6年の23名の希望者と保護者が参加し、久万高原町の消防署や社会福祉協議会の皆さんのご指導により、自分の命を守るための様々な活動を行った。

① 開会式（17:30～）

児童は、初めて経験する「防災キャンプ」に興味津々で集合してきた。会場の体育館には、昨年度起こった熊本大地震の写真や、非常持出袋とその中身、あると便利で役に立つ防災グッズを展示した。これらの品物については、閉会式の前に、消防署員から詳しい説明があった。



【 開 会 式 】



【 熊本地震の様子 】



【 非常持出袋 】



【 防災グッズ 】

② 炊飯訓練 i

アルミ缶2個を使って炊飯に挑戦。燃料は、細かく切った牛乳パック。途中で火が消えることもあり、火の管理に悪戦苦闘しながら、何とか無事に炊きあげることができた。少々固めのご飯であったが、おいしくいただけた。



【 炊飯の様子 】

【 できあがったご飯と食事風景 】

③ 花火教室

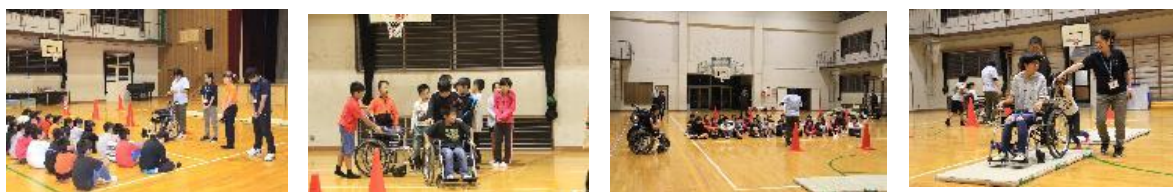
安全な花火の取扱について教えていただいた後、消防署からプレゼントされた花火を楽しんだ。



【 安全に花火を楽しむ子どもたち 】

④ 車いす体験

社会福祉協議会の方々のご指導により車いすの疑似体験を行った。乗っている人が不安を感じないように、声をかけながら優しく車いすを操作することの大切さを学んだ。



【 車いす体験 】

⑤ 段ボールによる避難所設営

体育館が避難所になったことを想定し、自分たちの寝床を段ボールで作製した。さらに、停電も想定し、発電機による電灯 1 つだけの薄暗い体育館の中で、子どもたちは秘密基地を作るように目を輝かせ、個性あふれる寝床を完成させた。段ボール 1 枚・体育館にあるマット 1 枚をしくだけで、体温が奪われずに就寝できることを身をもって体験できた。



【 段ボールによる避難所設営 】

⑥ 被災体験講話・就寝準備・就寝（10:00～）

1 日の最後に、阪神淡路大震災の被災者であり、避難生活を体験された P T A 副会長さんの体験談を聞いた。「避難所生活では、今まで当たり前であったことがそうでなくなる」「自分の命を守れない人は、他の人の命を守ることはできない」という言葉が印象に残った。これで、初日の日程が終了となった。



【 被災体験談を聞く子どもたち 】

⑦ 起床・洗面・段ボール等の片付け

⑧ えがお体操

⑨ 炊飯訓練 ii

お米を専用のビニール袋に入れて大鍋でゆがいて炊飯。蒸しパンも同様の方法で作った。どちらも温かくてやわらかく、とてもおいしかった。手軽においしくできることに、子どもたちも驚いていた。



【 大鍋による炊飯 】



【 ビニール袋から取り出しの食事 】

⑩ 片付け・感想文作成・閉会式・解散（～8:20）

感想文を作成した後に、閉会式を行った。指導をいただいた消防署員の方から「君たちは、防災の実践者・リーダーです。学んだことを友達やおうちの人、周りの人にも広めてください。」という激励の言葉をいただいた。今回の防災キャンプに参加した子どもたちは、充実感に溢れるとともに、ひとまわり成長したように感じられた。



【 感想文の作成 】



【 閉会式 】

⑪ 子どもたちの感想

もしもの時に備えて、ご飯のたき方を学んだり、段ボールで寝床を作ったりしたことが、すごく勉強になりました。むしパン・ご飯がビニール袋やアルミ缶を使ってできるとは思っていませんでした。

この2日間とても勉強になりました。学んだことは、アルミ缶2つでご飯が炊けること、しかも、燃料は細かく切った牛乳パック、段ボールを1枚しただけで暖かく寝られることです。家でもやってみたいです。

(2) 防災教育講演会

10月の参観日にあわせて、愛媛大学防災情報研究センター副センター長をお招きして、防災教育の講演会を開催した。時間帯を2つに分けて、5校時は1～3年生を対象とし、6校時は4～6年生と保護者を対象とした。まず、実際の地震や津波、土砂災害の映像や写真を使って災害の恐ろしさを学んだ。次に、正しい避難の方法や、久万高原町における危険性の実態について教えていただいた。さらには、日ごろからの減災対策や備蓄品・非常持出袋準備などの大切さについてのお話があった。低学年については、防災に関する〇×クイズもあり、児童も保護者も防災について考え、防災意識を高める有意義な講演会となった。



【 低学年の様子 】



【 高学年の様子 】

【 久万高原町土砂災害危険度 】

6 取組の成果

- (1) 児童は、防災に関する体験活動や学習活動を通して、「自分の命は自分で守る」意識と、そのための知識や技能を高めることができた。
- (2) 保護者や地域の関係機関と連携した取組を実施したことにより、家庭や地域での防災意識も高まった。今後、さらなる連携の強化や防災体制の整備が進んでいくと思われる。
- (3) 教職員も、非常事態の際にいかに子どもの命を守るか、また、災害に対してどのように備えたり対応したりするのか、その知識や技能を高めることができた。

7 今後の課題

- (1) 一度学び身についた防災に関する知識や技能も、そのままにしておくと忘れてしまう。今後も、継続した取組を重ねていく必要がある。また、自然災害は想定を超えて襲ってくることもある。学んだことを活用するだけでなく、臨機応変に最善を尽くす行動がとれるよう、状況に応じた判断力を養っていく必要がある。
- (2) 家庭や地域との連携をより強化し、非常変災の際には、自助・共助の精神のもと協力体制がとれるようにしておく必要がある。
- (3) 次年度は、今回の取組をもとに、より実践的で実効性のある取組へと広げていきたい。